

# PAG-ASA

JFC 奨学金基金報告

パグアサー 夢・希望

2016年6月

## 新しいJFCのご紹介

2016年6月15日から公立小学校・高校の新学期が一斉に始まりました。今学期から新しい奨学生となるユカリ・サカタさんを紹介します。ユカリさんはJFC奨学生であるムサシ・サカタくんの妹です。現在も日本人父親は行方不明のため養育費は期待できず、日々の生活は困窮し、子ども達が学校に通えなくなる可能性も大いにある状況です。

## 母子の社会経済的状況



母親であるイメルダ・サカタさんは、ブラカン州で姉と家をシェアしており、電気代をイメルダさんが、水道代を姉が支払うようにしています。家は一階のみで、キッチン、トイレ、ソファ、テレビ、扇風機、布で仕切られた小さな部屋があります。

そこには4人、イメルダさん、ムサシくん、ユカリさん、イメルダさんの弟が暮らしています。しかし、ユカリさんに起こった悲しい事件をきっかけに、イメルダさんは子ども達を平日はマニラ市トンド地区の姉妹の家に住ま

わせています。なので、家族と一緒に生活できるのは週末のみになっています。

イメルダさんは毎日マーケットで魚を売っています。2年前にこの仕事を始めましたが、子ども達の学校がマニラ市内にあるため行事などがあると仕事を休まなくてはなりません。午後9時から午前1時はマラボン フィッシュ ポートに魚を買いに行き、いったん自宅に戻って休憩をし、午前4時から午後1時、マーケットで魚を売り、その後家に戻るとい生活をしています。1日300ペソの収入になり、月々9000ペソを得ています。彼女は日々100ペソを緊急時や電気代に、100ペソをクリスマスのために貯金するよう努力していますが、収入は魚の状況によって決まるので、不安定です。また、子ども達の成長につれて出費もかさむため、お金を貯めることは難しいようです。

## JFCユカリさんについて

2005年3月5日にユカリさんは生まれました。近所に住む友人家族がよくゆかりの面倒を見てくれました。友人家族には息子がいました。2008年から2010年の間、イメルダさんは家族を支援するためにドバイで働いていました。2009年9月、イメルダさんは何か嫌な予感がしたため、ユカリさんにドバイから国際電話をしました。しかし、ユカリさんは自宅にいなかったため、一緒に住んでいたイメルダさんの姉と話をしていました。





すると突然、ユカリさんが自分の下着を掴んで部屋に入ってきました。ユカリさんに事情を聞いてみると、友人家族の息子がユカリさんがテレビを見ているところを襲ってレイプをしようとしたのでした。レイプは未遂に終わりましたが、その息子は逃げていきました。未遂事件後、ユカリさんは精神的に不安定で暴力的になっていったため、フィリピン総合病院の精神科に通うようになりました。2013年頃には精神的に安定し始め、月一度のカウンセリングを受けるのみと

なりました。しかし、ユカリさんは男性恐怖症になってしまい、現在でも学校の彼女の席の周辺は女子生徒だけが座るように配慮してもらっています。ユカリさんは、女の子になりたくないと言っており、事件は彼女を変えてしまいました。そして、友人家族から離れた所に住むよう、イメルダさんはユカリさんとムサンくんをマニラ市トンド地区の姉の家に移住させたのです。

### ユカリさんの成績について

2010年から2011年(1年生、2年生)の時、事件の影響が学業にも現れ、成績は思わしくありませんでした。しかし、事件が起こった家を離れマニラで勉強をするようになると、徐々に学業に集中できるようになり、成績もよくなってきました。平均80点以上を取れるようになりました。

タガログ語 — 78% 英語 — 80% 数学 — 80% 科学と健康 — 83% 家庭科・職業 — 83% 音楽・美術・体育 — 83% 道徳教育 — 84%

### ユカリさんの夢

彼女は将来産婦人科医になりたいと考えています。その夢を叶えるため、彼女は一生懸命勉強を頑張っています。また、日本国籍を取得できたので、将来は日本にも行ってみたいそうです。そして



母親のイメルダさんも、娘の夢をサポートするために魚売りを頑張っています。彼女は幼くしてとても辛い経験をし、消える事のない大きな傷を負いました。しかし、母親や兄弟、親戚達からのサポートを受け、前向きに生きようとしています。そんな彼女の夢を叶えるためにも、団体からの奨学金支援はとても必要なのです。